

【読むこと(説明文)単元構成】

知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の育成

ゴールを意識した授業

研究の目指す子ども像「目標に向かい、かかわり合いながら、ねばり強く取り組む子ども」の実現に向けて、国語科では、単元を通して身に付ける力を明確にし、子どもが見通しをもって自ら資質・能力を獲得していく授業を目指す。そのためのツールとして、「ラーニングマウンテン」の活用の仕方を研究していく。

1. つかむ(第1ステージ)

- ・ラーニングマウンテンを使った単元の見通しの共有
- ・教科書教材の初読

2. ふかめる(第2ステージ)

- ・教科書教材を通して指導事項を習得
- ※指導事項のつながりを意識するために系統表を活用する

3. つながる(第3ステージ)

- ・言語活動の取組
- ※発展教材等も活用しながら個の学びの充実を図る
- ・成果物の交流

柱Ⅰ 見通しと振り返りの工夫

内容① ラーニングマウンテンによる見通しの共有

目標に向かい

子どもが見通しをもって自ら学習を進めていく姿を目指したい。そのために、単元の「つかむ(第1ステージ)」で、ラーニングマウンテンを提示・作成する。また、それ以降の各単位時間でも提示し、ゴールや現在地を把握するためのツールとして活用していく。基本的な枠として、単元のゴールと育成する指導事項、それに向けた学習活動の流れとそこで身に付けた力のたしかめ、これまでに獲得した力を記入する欄がある。子どもが使用するものなので、子どもが理解できる言葉で表記する。



柱Ⅱ かかわり合いを活性化するしかけ

内容② かかわり合うための3つのしかけ

かかわり合いながら

子どもが必要感をもって、友達と話し合う姿を目指したい。そのために、ただ交流活動を設定するのではなく、教師が意図的な「しかけ」を選択し、交流活動につなげる。以下で「3種類のしかけ」と例を紹介する。

①発問のしかけ

もし、~だったら? (ゆさぶる)

Aさんの意見の続きが言えるかな?(つなぐ)

②場のしかけ

議論がしやすい座席の工夫

ICTや黒板で立場を可視化

③教材のしかけ

正しい筆者の考えが書かれたものを選ぶ

間違っている順番や内容を提示する

柱Ⅲ 個の学びの充実

内容③ ラーニングマウンテンによる学びの自覚化

ねばり強く

子どもが単元を通して、粘り強く学習を進めようとする姿を目指したい。そのために、単元の「つかむ(第1ステージ)」で、指導事項「読みのアイテム」を想起し、学習を進めていくヒントとしたい。また、「ふかめる(第2ステージ)」では、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等の指導事項を、「つながる(第3ステージ)」では、学びに向かう力・人間性等の指導事項を見取る活動(言語活動)を設定する。その際、子どもが学びを自覚できるよう、各ステージでたしかめの欄を活用し、自己評価を行う。